

を主催し、インターネットや印刷物で情報を普及する。

統合

科学的に効果が証明された代替補完医療を通常医学に取り入れる。研究結果を論文発表し、エビデンスに支えられた代替補完医療を通常医学の臨床に取り入れる方法を研究する。医学、歯学、看護学のカリキュラムに組み込むモデルを開発するプログラムを支援する。

著明ながん専門病院での取り組み事例

ケース1 ダナ・ファーマーがん研究所、統合医療のためのゼイクム・センター(Zakim Center for Integrated Therapies)⁶⁾

ハーバード大学系病院で全世界からがん患者が訪れるダナ・ファーマーがん研究所のなかに、“Zakim Center for Integrated Therapies(統合療法のためのゼイクム・センター)”が開設されたのは、2000年11月のことである。最先端技術で有名なこの病院の内部に代替補完医療のセンターが開設されたことは、腫瘍専門医の代替補完医療に対する偏見を変えるきっかけになった。

センターは、補完療法にターゲットを絞って(表2)その効果と安全性を研究し、臨床、教育、研究プログラムの連携を作り上げ、知識を深めることを目的としている。現在までもっとも力を入れているのが鍼術だが、同じがん研究所内にあっても最初から腫瘍専門医に信頼されていた訳ではない。だが、開設当初は患者個人または看護師の紹介の受診がほとんどで週に1度しかなかった鍼の診療は、現在では週に4.5日になり、主に腫瘍専門医やプライマリーケア医師の紹介で来所する患者が1か月に120-130人に増えている。ローゼンタール医師は、この急激な変化の理由を「主治医との連携を密にしているから」と答えている。あくまで手術、化学療法、放射線療法といった通常医学が主であり、補完医療はそれらの副作用を緩和して患者の心

表2 ダナ・ファーマーがん研究所、ゼイクム・センターが提供する統合医療

-
- ・鍼術
 - ・マッサージ・セラピー：指圧、その他のマッサージ
 - ・マインド・ボディ介入法：イメージ誘導、瞑想、リラクゼーション反応
 - ・音楽セラピー
 - ・栄養カウンセリング(サプリメント、薬草に関する相談も含む)
 - ・霊気
 - ・セラピューティック・タッチ
 - ・ヨガ
 - ・気功
-

身のウェルネスをサポートするものである、という位置づけが腫瘍専門医に受け入れられる理由の1つである。

研究については、現在までに「鍼術」「音楽セラピー」「気功」の3分野で自己免疫の増加、化学療法の副作用の緩和などの効果を調べる臨床治験を行ない、気功についてはすでに文献発表の準備段階に入っている。

さて、問題のサプリメントについてはどのような取り組み方をしているのだろうか。

将来的には抗酸化物質や薬草の研究も行なう計画だが、ゼイクム・センターではまだその準備ができていないことを認めている。現在行なっているのは、患者の要請に応じて「栄養カウンセリング」のときに情報を与えることである。その際に強調するのは、有効性と副作用、禁忌である。とくに危険性が報告されている療法については、エビデンスを見せて警告する。けれども、最終的には患者本人に自己決定の権利があるという「Autonomy(自律)」がゼイクム・センターの考え方である。

ケース2 メモリアル・スローン・ケタリングがんセンター(Memorial Sloan-Kettering Cancer Center)⁷⁾

ニューヨーク市にあるメモリアル・スローン・ケタリングがんセンターに1999年に開設されたThe Integrative Medicine Service(統合医療